



## 出発以前に心配に思っていたこと

- ・語学(スペイン語で授業など出来るのか?)
- ・任国の学校のレベルはどの程度なのか?
- ・何が必要なのだろうか?
- ・人間関係は大丈夫?(現地の人と隊員と)

出発以前に漠然と不安に思っていたことはたくさんありました。その中でも仕事に関わることでこんな事(画面上の4項目)を心配していました。結局は何とかなるのですが、出来るだけ良いスタートをきって、充実した活動をやれる準備だけはしておくべきだと思います。

現職で参加される人にとって大変有利なのは現場で行う授業は勿論ですが、それ以上の学校運営上の雑用のような仕事を何でもこなしてこられていると言うことです。たとえば駒ヶ根に来て、毎日自分の事だけを考えて、自分の為だけの勉強をすればよいこの環境をととても幸せだと感じられているはずですが、新卒やあまり働いたことのない候補生は規則が厳しいだの忙しいだのと愚痴を言っているはずですが。任国へ行ってからも同様で、仕事が生徒や先生に教えることだけに絞られるので、中身は大変なのですが、日本で多くの種類の雑務に追われている先生稼業から考えれば天国のようなものなのです。でも、他の経験の浅い隊員にはそれが理解できずに不平ばかりということになったりするように。

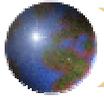


## 語学(スペイン語で授業など出来るのか?)

- ・3ヶ月から6ヶ月で耳が慣れて日常生活には困らない
- ・授業に関しては追いつけない部分は視覚に訴える。



語学については英語圏以外の人には始めはとにかく苦労します。スーパーの買い物でもレジで聞かれるネセシタエルチケットオラファクツラが聞き取れませんでした。20代の方は3ヶ月くらいで、それ以上の方は半年くらいで耳が慣れて聞き取れるようになります。聞き取れるようになるとある程度の会話ができるようになり、日常生活には不自由しません。しかし、仕事となると、専門用語もありますし、独特の言い回しも必要になって、なかなか指導をされるとか授業をスムーズにやるとかは難しいものがあります。そこで、何らかの工夫が必要になります。語学の勉強はとにかくある程度出来るようになって地道に文法書など読むことを続けていくべきですし、さらに仕事の上での工夫が必要です。私の場合は視覚に訴えるようにすると言うのを一つのテーマにして乗り越えました。実験道具を作る、コンピュータとプロジェクターを買って貰って、視聴覚教材を充実させる等を行いました。これは私だけではなくアフリカの隊員でも似たようなことをやっている人がいたようで、金子局長がプロジェクターを使った授業は言葉のハンデのある隊員達には有効な手段だと何かの報告で書いてあるのを読みました。



## 任国の学校のレベルはどの程度なのか？

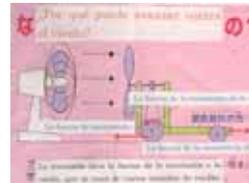
- ・前任者および同国隊員の報告書を読む
- ・インターネットで調べる。  
<http://uk.dir.yahoo.com/Regional/Countries/>
- ・目指しているものは日本とあまり変わらない。

任国のレベルがどの程度なのか、あまりに低いのか、逆に私の能力では先生達に教えることなど何もないかもしれないと心配に思ったりもしました。皆さんもすでに読まれたと思いますが、報告書を前任者のものはもちろん、同国、または隣国の同職種のものについても読む必要があると思いました。漠然とどの程度かつかめると思います。後、インターネットでもある程度調べることが可能ですが、現地の現地の言葉による教育精度などのHPは語学が出来るようになってからでないと完全理解は難しいものだと思います。相対的に言えるのはめざしているレベルは日本と変わらないと言うことです。なぜなら、そのカリキュラムは結局はどこかの先進国のものを取り入れたものがほとんどだからです。ただ、その途中の方法論として、算数の能力が欠けているとか、教え方を知らないとか、お金がなから教材が買えないとかがあるだけで、日本の先生達と変わらないと思います。日本の先生や生徒でもいろんなレベルの人がいるのと同じだと思います。



## 何が必要なのだろうか？

- ・コンピュータ(情報収集には欠かせない)
- ・参考書・問題集(持てるだけ持って行く)
- ・今学校で使っているプリントやテキスト
- ・日本学校の全ての写真、授業の動画

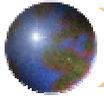


パソコンとデジカメは必需品です。大概の首都はパソコンを売っているので、日本から持って行く必要は無いかもしれませんが、高性能なものを必要とする場合やノートパソコンは日本から持っていった方が良いと思います。ノートパソコンを日本から持って行きましたが、働きはじめて持ち運びが嫌だったので、職場用に1台デスクトップを現地で買いました。また理科の実験室用には事務所に買って貰いました。つまり合計3台のパソコンを使い分けていました。今は全世界的にインターネット環境が整っているので、メールのやり取りHPからのデータ等のダウンロードも支障なくできるはずです。

参考書や問題集は出来るだけ持って行った方が良いと思います。迷ったものは配達できるように準備だけして、誰かにあずけておくの良いと思います。現地で必要だと思ったときにすぐに送って貰えるようにしておくべきです。一つ下のものも用意しておく、高校ならば中学の資料、中学ならば小学校、小学校ならば幼稚園という風にです。前の段階から欠けていることがあるので、基礎からやり直させるために必要になります。

日本の学校で普段使っているテキストやプリント、特に自作のものが大変役に立つと思います。自作のものであれば、日本語の部分を簡単に翻訳してそのまま使えますし、手慣れたものほど現地の人にも説明しやすいものです。

後、現地の先生は勿論生徒にも日本の学校を理解してもらえる資料は重要です。後から同僚に送ってもらうことも可能ですが、出来れば自分で準備して、自分で持って行くのがよいと思います。授業風景や学校の様子、学校行事の様子などの写真が良いと思います。



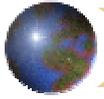
## 人間関係は大丈夫？(現地の人と隊員と)

- ・日本の職場と同じである。
- ・隊員とは適度な距離が大事
- ・事務所との関係は良好に

今人間関係が良好で働けている人は現地に行っても問題ないと思います。逆に日本の学校で人間関係が難しくと言う人はやっぱりどの国に行っても同じだと思います。日本の学校社会と同じように働き者もいれば人に仕事を押しつける人もいます。そういう人たちとどうやって付き合っていくかは日本の時と全く同じだと思いましたので、現職の皆さんは心配することなく日本での時と同じようにやっていけばいいと思います。

隊員どうしとのつきあいはとても楽しいので、仕事や語学の上達に支障をきたさないように自分でブレーキをかけて、ある程度距離を置くようにしました。

事務所との関係、特に調整員との関係は大事だと思います。はっきり言うと社会経験や仕事を進めていく手だては現職教員の方がよくわかっている場合があります(調整員は日本でちゃんと働いた経験をあまり持たない人が多いようです)。調整員の仕事は担任の仕事と同じようなもので、生徒である隊員の面倒も見つつその他の雑事にも追われるという状況です。教員から見ると優先すべきことが違うんじゃないと思うこともありますが、でも、そこはぐっとこらえて、あくまで協調路線で、援助を引き出すようにすべきです。



## 活動報告

- ・ 国立技術工業高校での活動
- ・ 学校外での活動
- ・ 私生活上での活動
- ・ 旅行

では、実際にやってきた活動を画面のように3つに分けて報告します。



## 国立技術工業高校

生徒1200名、職員100名  
教養科、機械科、自動車科、電気科、電子科  
首都サンサル中心地近く



職場は首都の中心にあるこの国の国立高校のなかでは一番優秀だと先生も生徒も自信を持って言ってる高校でした。4つの科からなり、職業教育に力を入れていましたが、2～3割の生徒は大学にも進学していました。ワニがシンボルで実施にもワニを飼っていました。



## 学校内での活動

授業の実施

実習装置の整備

視聴覚機器の整備

資料の提供

日本語授業



学校内での活動は画面の5つの項目です。授業は理科の実験実習を行いました。理科の実習担当の先生、理科の座学の先生、そして私の3人で行ってしました。その授業為の装置の整備や、前にも述べた視聴覚機器の充実に努めました。また、理科写真ニュースを日本から取り寄せて、それを翻訳して、理科実験室の前に掲示したり、日本の実験書を翻訳して資料の提供をしました。土曜の午前中日本語の授業を希望者に行ったりもしました。



## 学校外での活動



地震被災者用住宅以内の小学校で工作授業



首都の孤児院でのコンサートと科学マジック



ロールデスの孤児院での日本文化紹介



ネハパでの日本文化紹介

日本から寄付の古着の贈呈



学校外では震災者の小学校や孤児院の慰問に行ったり、各地で日本文化紹介を行ったりしました。日本の学校に頼んで、古着を送ってもらい孤児院に寄付したりしました。



## 私生活での活動

毎週土日は空手

オペラに出演

サルサ教室、乗馬学校

フォルクローレクラブ



プライベートでは空手を毎週土日に習いに行ったり、平日の昼休みに学校のフォルクローレクラブと一緒に活動して、笛を習ったりしていました。



# 旅行

隊員同士での旅

エルサル人との旅

一人旅



長期の休みなどはなるべく各地を見て歩くようにしていました。また学校の試験期間などは学校の先生達にあちこち連れて行ったりもしました。